

表在性膀胱癌（T1, ハイグレード）に対する治療方針について

（ ）様

「御本人様のみへの説明でよろしいですか？」 可 御家族同席

平成 年 月 日に行われた経尿道的膀胱腫瘍切除術の病理組織が
表在性膀胱癌（T1、ハイグレード）と判定されました。

T1：表在性（粘膜層のみに癌がとどまっている）の中でも深い部分まで癌が浸潤している。

ハイグレード：悪性度が高い。

このような癌には

- ① 再発しやすい。
- ② 浸潤癌（筋層にまで癌が入り込む。膀胱全摘除術の対象となる。）に進展しやすい。

といった特徴があり、再発予防のために追加治療が必要となります。

四国がんセンターでは以下のような追加治療を行います。

- ①（最初の手術から）約一ヶ月後に再度膀胱の中を削る手術を行います。
T1、ハイグレードの癌の周囲には肉眼的に判別できない状態で癌が残っていることが多いため、前回手術範囲の周囲を再度削ることでより完全に癌を除去します。
- ② BCG（弱毒化結核菌）を膀胱内に注入します。70%の患者さんの再発予防が出来ると言われていています。週に1回ずつ、合計6回の膀胱注入を行います。一般的に初回のみ入院で行い、残りの5回は外来で行います。（詳しくは膀胱内注入時に別紙で説明します。）
- ③ 最終BCG膀胱注入後より約一ヶ月後、再度膀胱を削る手術をします。
完全に癌が消失していることを確認するためのものです。

以上四国がんセンターにおける表在性膀胱癌（T1、ハイグレード）に対する治療方針について説明しました。

平成 年 月 日

説明医師 _____

患者氏名 _____

同席者氏名 _____